



最優秀賞

沖縄県 株式会社サンシャイン

「知的障害者の社会就労支援」事業



サンシャイン代表取締役社長
仲松健雄さん

選考理由

社会貢献活動審査委員会 委員
山下頼充氏



地元・授産施設からの支援要請を受け、知的障害者が製造するパンを毎年7～800万円、8年間継続して購入し、同授産施設の事業運営の安定に大きく寄与するとともに、知的障害者に働く喜びや社会活動に参加する誇りを与えている活動です。長年にわたる継続的な支援に、全国社会福祉協議会から19年度に表彰を受けるなど地域に支えられたパチンコホールが取り組んでいる典型的な社会貢献活動として高い評価を受け、組合員ホール部門の最優秀に選出されました。

ゆいまーる精神に基づいた積極的な



毎日届けられる「そてつの会」の焼きたてパンを持ったホールスタッフ

沖縄県の南部・中部を中心に県下に20ホールを展開する(株)サンシャインは、約1,000名の社員を雇用し、失業率が全国一の沖縄にあって貴重な就労の場を提供している企業である。人を大切にする企業風土のもと、よき企業市民としての責任の自覚と社会への貢献を経営理念に掲げている。

「弊社は地域の人々のおかげで成り立っています。地域社会への貢献活動は企業としての使命であり、それに取り組むことが企業の存在意義のひとつだと考えています。パチンコ店は長い歴史がありますが、まだまだ人々に理解されていない面や誤解もあります。それだけに地域行事に積極的に参加したり、社会貢献を行うことで、より多くの方々に弊社の理念を理解していただくことが重要と考えています」

そう話す、仲松健雄社長。その一環としてサンシャインが取り組んでいるのが、一般的に就労の場から閉ざされがちな知的障害者の社会就労を側面から支援する活動である。県内の社会福祉法人・授産施設「そてつの会」からの支援要請に応える形で2000年(平成12年)にスタートした事業だが、具体的には、同施設に就労する知的障害者が製造するパンを継続的に購入(月平均60～70万

社会貢献、地域活動で企業理念を表現



福祉大会の餅つきのお手伝い



マラソン大会でランナーをサポート



地元のお祭りでゴミ清掃活動に参加

円相当)することにより、同施設の事業運営の安定に寄与するとともに、知的障害者に働く喜びや社会活動に参画しているという誇りを持ってもらうことである。

年間を通じ、公休日を除いて原則毎日、数十個のパンを複数の傘下ホール(開始当初5店舗、現在9店舗)が購入し、景品として来店客に提供しているが、パンはおいしいと評判で、その日のうちに完売するほど。なかには毎回、そのパンを目当てに来店する人もいう。

また、スタッフの間では、パンの納品にやってくる障害者のしっかりとした挨拶や清々しい態度に触れ、日々、心を新たにさせられるとともに、一生懸命生きることの大切さを学ばせてもらっているという人もいる。そこには支援する側と、される側という関係を超え、ともに学びあい、支えあっていこうという関係が築かれていることがうかがえ

る。これも相互扶助と平等の原則を根底とする、沖縄地方特有の“ゆいまー”精神の表れかもしれない。

この活動が評価され、2007年(平成19年)には全国社会福祉協議会が主催する「全国社会就労センター協力企業表彰」を受賞している。この賞は地域の社会福祉施設に5年以上・500万円以上の貢献をした団体に贈られるもの。金額はさておき、サンシャインの支援活動がスタートする前には約60名だったという「そてつの会」の就労人員が、支援を機に徐々に増え始め、現在では80名を超えるまでになっており、事業継続の社会的波及効果として注目される。「残りの店舗にもパン購入を拡げていきたいと考えていますが、施設側の納入対応の難しさもあります。また、今後の課題として、購入だけにとどまらず、施設のみなさんとの直接的な交流も実現したいし、そのほかの授産施設とも関わりを持っていけたらと思っています」

と、仲松社長と広報担当の池原勉さん。サンシャインでは、この支援事業のほかにも社員が一丸となって、各種の地域活動に積極的に取り組んでいる。昨年の主な活動例としては、2月の「沖縄マラソン」と12月の「那覇マラソン」に協賛し、社員がボランティアとしてランナーへ飲料・軽食を提供したり、3月には浦添市社会福祉協議会の福祉大会で餅つきの実演や補助、児童養護施設の児童と一緒にプロバスケットボールの試合観戦、4月の花火大会「琉球海炎祭」と8月の「ふるさとエイサー祭」でのゴミ清掃活動などがある。また、「那覇マラソン」や競漕大会「那覇ハーリー」では、多くの社員がレースに参加してイベントの盛り上げにも一役買っている。社員がこぞってボランティア活動に取り組むことが、社員相互の交流や結束を深めるきっかけにもなっているようで、これからの企業、社会、社員の関係やあり方を考えるうえで、サンシャインの事例は格好の教材となるように思われる。



管理部長 広報担当
池原 勉さん